努力事項解説　その４　（特別活動　児童会・生徒会活動）

学級活動や学校行事との関連を図るとともに、
異年齢集団による交流のよさを一層重視して、
自己肯定感・自己有用感が高まるよう適切な指導に努めましょう。

「学級活動や学校行事との関連を図るとともに、異年齢集団による交流のよさを一層重視して」とは

「学級活動との関連を図る」とは

学級活動との関連を図るということは、学級活動で自発的、自治的な活動をしっかり行い、学級活動そのものを充実させる、ということです。

児童会活動を活発で充実したものにするには、学級における指導が大きく影響します。学級活動で、学級における生活上の諸問題について積極的に話し合い、係活動など学級内の仕事の分担処理の活動の経験を積み、楽しい集会活動を行う活動の過程で、児童が自発的、自治的に活動するための指導が適切に行われているならば、児童会活動が充実し活発になってきます。また、児童会活動で経験した多様な活動が学級生活にも生かされ、学級や学校の生活をより一層充実したものにすることができます。　（小学校）

一方、中学校では、「生徒総会」や「生徒会役員選挙」、「新入生を迎える会」や「卒業生を送る会」などの生徒会の行事は、その準備の時間も含め、学級活動や学校行事などとの関連も図って、学校の年間計画の中に位置付けることも必要です。また、「生徒評議会（中央委員会など）」や「各種の委員会」の活動については、学級活動との関連を図り、特定の曜日などを決めて開催したり、その活動内容を発表する機会を持つようにしたりするなどの工夫が必要です。　（中学校）

「学校行事との関連を図る」とは

児童が、学校行事の各種類の内容の特質に応じて、計画の一部を担当したり、児童会の組織を活用して学校行事の運営に協力したりする活動を行う。ということです。

例えば、学芸会や運動会、学年を越えて行う遠足や集団宿泊活動などの学校行事の一部を、児童の発意、発想を生かした計画によって実施したり、各委員会の活動内容を生かした協力的な活動を取り入れて実施したりすることです。　（小学校）

中学校では、学校行事は全校又は学年を単位として実施されることが多いので、全校の生徒を会員として組織している生徒会として、それぞれの行事の内容に応じて、計画や実施に積極的に協力し、参加することが大切です。例えば、生徒会でも実行委員会などを組織し話し合ったり、各種の委員会等の活動の中に学校行事への協力を位置付けたりすることで、生徒一人一人が学校行事に参加し協力する意識が高まると考えられます。

また、こうした関連を図ることによって、生徒相互の連帯感が深まり、活動の幅も広がり、生徒会活動の充実にも結び付きます。ですから、学校行事を行うに当たっては、教師の適切な指導によって、生徒会の立場から自主的、積極的な協力ができるように配慮して進めていきましょうということです。（中学校）

「異年齢集団による交流のよさを一層重視して」とは

児童会活動における異年齢集団による交流を積極的に行う、ということです。

児童会活動における「異年齢集団による交流」には、児童が、児童会集会活動など学年や学級の異なる他者と共に楽しく触れ合い、交流を図ることによって、望ましい人間関係を深めるような活動が考えられます。

特に、全校児童が一堂に会して行われる全校児童集会は、児童の自発的、自治的な活動を効果的に進めるとともに、異年齢集団による交流のよさを一層重視して計画・運営していくようにしましょう。（小学校）

中学校では、生徒会活動は、各種の委員会活動など異年齢集団による実践的な活動を特質としていますが、また、同時に、異年齢集団による交流を活性化する役割を担っています。そうした活動として、例えば、「新入生歓迎会」や「卒業生を送る会」、「校内球技大会」などがあります。

異年齢集団による交流活動は、上級生としての自覚や責任、下級生としての役割などについて考えながら、生徒同士の密接なかかわりを通し、人間関係について気付いたり学んだりすることが多く、その教育効果は極めて大きいといえます。ですから、これらの活動に積極的に取り組み目的を達成していくようにしましょうということです。（中学校）

「自己肯定感・自己有用感が高まるよう適切な指導に努めましょう。」とは

学級活動や学校行事との関連を図るとともに、異年齢集団による交流のよさを一層重視することで、自己肯定感や自己有用感を高めましょう、ということです。

「自己肯定感」は「ありのままの自分でいいんだ」など、自分の存在や価値を肯定する感覚や感情のことです。これを高めることで、自分自身に自信をもつことができ、それによって自分以外の人を受け入れ、支え合うことができるようになります。

また、「自己有用感」は、他者との関係の中で、「自分は役に立っている」など、自分の存在を価値あるものと受け止めることができる感覚のことです。これを持つことで、他者とのかかわり合いを否定することなく、他者との関係を保ち続けることができるようになると言われています。

児童会・生徒会活動を、学級活動や学校行事との関連を図るとともに、異年齢集団による交流のよさを一層重視して適切に実施していくことで、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高め、児童会活動、生徒会活動の目標を達成すると共に、児童生徒の自己実現を図っていきましょうということです。

次回は「各学校の実態に応じて組織や運営方法等を見直し、児童生徒のリーダーシップの育成を図りましょう。」について考えてみます。

9月27日（金）頃アップの予定です。